

日本摂食障害協会活動報告 2018

～ご報告資料～（～2019/3/31まで）



一般社団法人日本摂食障害協会
2019.3.31_Ver2.1

世界摂食障害アクションデイ -World Eating Disorders Action Day-とは？

2016年6月2日からはじまり、世界初の取り組みとなった「世界摂食障害アクションデイ-World Eating Disorders Action Day-」が開催されました。この取り組みは、摂食障害で苦しむ方やその家族、専門家や研究者、サポーターらが国境を越えて団結し、摂食障害の啓発と支援活動を世界中で同時に行う世界初の活動で、2018年が第3回目の開催となりました。

当協会としては、日本独自の取り組みとして、アスリートの摂食障害に関する現状、理解を深めるためのイベントを開催しました。

【世界摂食障害の日 -World Eating Disorders Action Day-】
<http://www.worldeatingdisordersday.org/>

JAED
世界摂食障害アクションデイ 2018
— World Eating Disorders Action Day 2018 —
**アスリートの
摂食障害を考える**

摂食障害は、軽症のものを含めると、若い女性の約1割が拒食症や過食症などの摂食障害の症状を持っていると考えられています。適切な検査や治療を受けられないと命に関わる合併症が起こったり、身長が伸びない、骨粗鬆症、歯の喪失などの後遺症も残ったりします。妊娠や出産に影響することもあります。

スポーツにおいては、2020年東京オリンピック・パラリンピックを控え、競技スポーツはますます盛んになっています。ジュニア世代、女性アスリートの育成も強化され、更なる活躍が期待されています。しかし、選手のスタイルや体量が競技の判定や記録に影響を及ぼしやすい体質、アイススケート、陸上などの競技では、若い女性アスリートでは「アスリートの3主徴」と呼ばれる、やせ、無月経、骨折が多く、摂食障害の有病率は一般女性の3倍と報告されています。残念ながら、競技成績を重視するあまり、健康やカラダ作りに注意を払わず、本来のパフォーマンスを発揮できずに結果が残せないまま、力がありながらも引退してしまう選手も多いのが現状です。

今年に入り、海外ではアイススケート選手が摂食障害が原因で引退が続き、日本ではクレプトマニア（窃盗症）につながる残念な事件も起きています。

特に、女性アスリートに対する支援の在り方についてはまだ研究・開発の途上ではありますが、女性のから、摂食障害の特徴を知って、ジュニア世代、女性アスリートへどのように指導していくか、摂食障害の現在の取り組み、今後どうバリエーションアップしていけるかなど、行政、国、関連学会、関連協会としてそれぞれの立場から発表、考えていきます。

**2018年
6月2日(土)
13:00~15:30
(12:30開場)**

会場 政策研究大学院大学 想海楼ホール
東京都港区六本木7-22-1
都立大江戸線 六本木駅7番出口より徒歩5分
東京メトロ日比谷線 六本木駅4A出口より徒歩10分
東京メトロ千代田線 乃木坂駅5出口より徒歩6分

参加申込
スマートフォン・パソコン・FAXで申込み
※詳しくはチラシ裏面をご覧ください **日本摂食障害協会**

入場 無料
定員 300名
(先着順・先着限)

主催 一般社団法人 **日本摂食障害協会** Supported by **THE NIPPON FOUNDATION**

共催：特定非営利活動法人日本トレーニング指導者協会
協力：公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 特別後援：日本財団
後援：東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会組織委員会、法務省、厚生労働省、スポーツ庁、東京都、港区、独立行政法人日本スポーツ振興センター、国立スポーツ科学センター、公益財団法人日本オリンピック委員会、公益財団法人日本財団、公益財団法人日本赤十字社、公益財団法人日本労働組合連合会、公益財団法人日本小児科学会、公益財団法人日本精神科学会、公益財団法人日本栄養・食糧学会、公益財団法人日本臨床医学会、一般社団法人日本女性心身医学会、一般社団法人日本心身医学会、一般社団法人日本臨床心理学会、一般社団法人日本体育学会、一般社団法人日本体力医学会、一般社団法人日本臨床心理士会、一般社団法人日本臨床栄養学会、一般社団法人アスロー・カロリー・研究会、一般社団法人日本社会福祉医学会、一般社団法人美容サロニシエ学会、特定非営利活動法人日本心療内科学会、特定非営利活動法人日本スポーツ医学研究会、特定非営利活動法人日本栄養改善学会、日本摂食障害協会、日本スポーツ精神医学会、日本トレーニング指導者協会、女性スポーツ医学研究会、ランニング協会（順不同）

世界摂食障害アクションデイ2018 ～アスリートの摂食障害を考える～

スポーツにおいては、2020年東京オリンピック・パラリンピックを控え、競技スポーツはますます盛んになっています。ジュニア世代、女子アスリートの育成も強化され、更なる活躍が期待されています。しかし、選手のスタイルや体重が競技の判定や記録に影響を及ぼしやすい体操、アイススケート、陸上などの競技では、若い女子アスリートにおいて「アスリートの3主徴」と呼ばれる、やせ、無月経、骨折が多く、摂食障害の有病率は一般女性の3倍と報告されています。残念ながら、競技成績を重視するあまり、健康やカラダ作りに注意を払わず、本来のパフォーマンスを発揮できずに結果が残せないまま、力がありながらも引退してしまう選手も多いのが現状です。

昨年から、海外ではアイススケート選手が摂食障害が原因で引退が続き、日本では元マラソン選手が摂食障害から窃盗につながるにつながる残念な事件も起きています。特に、女性アスリートに対する支援の在り方についてはいまだ研究・開発の途上にあります。女性のカラダ、摂食障害の特徴を知って、ジュニア世代、あるいは、女性アスリートへどのように指導していくか、摂食障害の現在の取り組み、今後どうバックアップしていけるかなど、行政、国、関連学会、関連協会としてそれぞれの立場から発表、考えていくイベントを企画いたしました。



開催概要

実施時期：6月2日（土）13:00～15:30

場所：政策研究大学院大学 想海楼ホール

参加者：328名（参加料無料）

対象：トレーナー、アスリート、各競技団体、養護教諭、部活顧問、セルフグループ、家族会、当事者、ご家族など

主催：一般社団法人日本摂食障害協会



共催：特定非営利活動法人日本トレーニング指導者協会



協力：公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会

特別後援：日本財団

Supported by  日本 THE NIPPON 財団 FOUNDATION

後援：東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会推進本部、法務省、厚生労働省、スポーツ庁、東京都、港区、独立行政法人日本スポーツ振興センター国立スポーツ科学センター、公益財団法人日本オリンピック委員会、公益財団法人日本医師会、公益社団法人日本栄養士会、公益社団法人日本産婦人科医会、公益社団法人日本産科婦人科学会、公益社団法人日本女医会、公益社団法人日本小児科学会、公益社団法人日本精神神経学会、公益社団法人日本栄養・食糧学会、公益社団法人日本歯科医師会、一般社団法人日本女性心身医学会、一般社団法人日本心身医学会、一般社団法人日本心理臨床学会、一般社団法人日本体育学会、一般社団法人日本体力医学会、一般社団法人日本臨床心理士会、一般社団法人日本臨床栄養学会、一般社団法人スローカロリー研究会、一般社団法人日本社会精神医学会、一般社団法人女性アスリート健康支援委員会、一般社団法人美容サロン協議会、特定非営利活動法人日本心療内科学会、特定非営利活動法人日本スポーツ栄養学会、特定非営利活動法人日本栄養改善学会、日本摂食障害学会、日本スポーツ精神医学会、日本トレーニング指導学会、女性スポーツ医学研究会、ランニング学会（順不同）

商品協力：国分グループ本社株式会社、株式会社サラダコスモ、株式会社ブルボン、株式会社丸善、株式会社明治、雪印ビーンスターク株式会社

プログラム

※敬称略

◆開始協会よりご挨拶

日本摂食障害協会理事長 生野 照子
日本摂食障害協会特別顧問 江利川 毅

公益財団法人医療科学研究所理事長。公立大学法人埼玉県立大学前理事長、元人事院総裁、元厚生労働事務次官、元内閣府事務次官。2016年3月日本摂食障害協会設立時に特別顧問へ就任。2017年春の叙勲で、瑞宝大綬章を受章。



◆日本摂食障害協会の活動について

●協会の活動報告

日本摂食障害協会理事 関東支部長 鈴木 眞理

●日本における就労調査

日本摂食障害協会理事 西園 マーハ 文

●無料相談窓口の状況

日本摂食障害協会フェロー 菅原 彩子



◆基調講演

●オリンピックメダリストの指導者が語る

「思春期アスリートに忍び寄る摂食障害の影」

大阪学院大学 ランニング学会理事

特定非営利活動法人日本トレーニング指導者協会監事 山内 武



プログラム

4) それぞれの立場から

※敬称略

- 厚生労働省
社会・援護局障害保健福祉部精神・障害保健課 心の健康支援室長補佐
溝口 晃壮
「厚生労働省における摂食障害対策 ～摂食障害治療支援センター設置運営事業の整備～」
- 独立行政法人日本スポーツ振興センター国立スポーツ科学センター
国立スポーツ科学センターメディカルセンター コンディショニング課
女性アスリート育成・支援プログラム 臨床心理士 真石 万衣子
「摂食障害の現状とアスリートへの支援」
- 一般社団法人スローカロリー研究会
一般社団法人 スローカロリー研究会 理事長
公益財団法人結核予防会理事・総合健診推進センター 所長
東京医科歯科大学臨床教授 宮崎 滋
「アスリート、摂食障害に対するスローカロリーの有用性について」
- 摂食障害全国基幹センター
摂食障害全国基幹センター センター長
国立研究開発法人国立精神神経・医療研究センター精神保健研究所
行動医学研究部ストレス研究室長 安藤 哲也
「摂食障害の現状と摂食障害治療支援センター設置運営事業について」
- 一般社団法人女性アスリート健康支援委員会
一般社団法人女性アスリート健康支援委員会 理事
聖路加国際病院 女性総合診療部部長 百枝 幹雄
「産婦人科から診る女性アスリートの三主徴について」



会場風景



世界摂食障害アクションディ 特別企画 映画上映会 & 討論会

< 1 部 >

『空（カラ）の味』 2016 年・日本・125 分
監督・脚本 塚田万理奈 主演 堀春菜

[ストーリー]

摂食障害に悩む女子高生が、ある女性との交流を通して解放されていく姿を描いたドラマ。女子高生の聡子は優しい家族や仲良しの友人たちに囲まれて何不自由ない毎日を送っていたが、いつしか自分が摂食障害に陥っていることに気づく。理由もわからないまま不安を募らせる聡子は、家族や友人との関係もぎくしゃくするようになり追い詰められていく。そんなある日、聡子は街で出会った危うげな女性マキと親しくなるが……。日本大学芸術学部の卒業制作「還るばしょ」で注目された塚田万理奈がメガホンを取り、「第10回田辺・弁慶映画祭」でグランプリをはじめ4部門を受賞した作品。

< 2 部 > 当事者、家族、治療者の討論会
～医療や家族ができること、できないこと～

[登壇者]

- ・ 日本摂食障害協会 理事
- ・ 当事者
- ・ 自助グループ
- ・ 家族会



JAED
World Eating disorders Action Day 2018

世界摂食障害アクションディ 特別企画
映会上映会 & 討論会

日時 2018年 6月2日 16:00～19:00 (15:45開場) 入場 **無料** 定員 300名 要事前申込
※詳しくは裏面に
※詳しくはこちら

会場 政策研究大学院大学 想海楼ホール
〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町3-33 2F www.jafed.jp
TEL 03-5226-1084 FAX 03-5226-1089 Eメール info@jafed.jp

part 1: 16:00～18:05
映画『空(カラ)の味』上映会

part 2: 18:20～19:00
当事者、家族、治療者の討論会
～医療や家族ができること、できないこと～
[登壇者予定]
・ 日本摂食障害協会 理事
・ 当事者
・ 自助グループ
・ 家族会

同日開催
世界摂食障害アクションディ 2018
アスリートの摂食障害を考える
6月2日 13:00～15:30
政策研究大学院大学 想海楼ホール 入場:無料
■アスリートの摂食障害に関する現状の活動や今後の動き
■日本摂食障害協会の活動発表
※詳細は「アスリートの摂食障害を考える」チラシをご覧ください

お問い合わせ 一般社団法人日本摂食障害協会
Japan Association for Eating Disorders
〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町3-33 2F www.jafed.jp
TEL 03-5226-1084 FAX 03-5226-1089 Eメール info@jafed.jp

日本摂食障害協会
jafed.jp
@info4341287

講習会

◆全国10箇所での講演会や研修会を実施

患者・家族、専門家、メディア向けなどそれぞれのテーマに合わせた内容で開催
エリア：埼玉（さいたま市）、東京（港区）、福島（福島市）、岐阜（中津川市）、
長野（東御市）、秋田（秋田市）、沖縄（名護市）名古屋（名古屋市）、他2箇所
（調整中）の10箇所予定。

▶摂食障害研修会（専門家（歯科医、歯科衛生士））

摂食障害講習会 ～拒食症・過食症について～

4月15日（日）13:30～16:00@彩の国すこやかプラザ2階セミナーホール

<共催> 埼玉県歯科医師会

<参加者> 86名

<登壇者> 参与 大津光寛先生、理事 鈴木裕也先生

▶摂食障害研修会（メディア、各媒体社限定）

摂食障害講習会 ～拒食症・過食症について～

4月21日（土）14:00～17:00@政策研究大学院大学 1A・B

<共催> 一般社団法人日本社会精神医学会

<参加者> 48名

<登壇者> 理事 鈴木裕也先生、理事 鈴木真理先生、当事者2名

▶摂食障害研修会（一般、当事者、家族）

摂食障害講習会

6月9日（土）14:00～17:00@福島県立医科大学 8号館 N301講義室

<共催> 摂食障害自助グループ「福島お達者クラブ」

<参加者> 125名

<登壇者> 香山雪彦先生（医師・福島お達者くらぶ）、理事 西園マーハ文先生、
当事者、家族



講習会

▶ 摂食障害研修会（一般、当事者、家族）

摂食障害ってどんな病気だろう？

9月9日（日）13:00～16:00@東御市中央公民館 2F講義室

<共催>長野県摂食障害自助グループ「パステル・ポコ」、摂食障害家族会全国

ネットワークポコ・ア・ポコ

<後援>東御市教育委員会

<参加者>114名

<登壇者>諏訪赤十字病院精神科 丸山史先生、理事 鈴木裕也先生、摂食障害家族会全国ネットワーク ポコ・ア・ポコの会代表 鈴木高男氏

▶ 摂食障害研修会（一般、当事者、家族）

食と栄養から考える健康について ～安心な野菜の食べ方、賢く摂っていますか？～

9月23日（日）13:30～16:30@ちこり村 大ホール

<協力>株式会社サラダコスモ

<参加者>30名

<登壇者>参与 柴崎（浮田）千絵里、理事 鈴木眞理先生、株式会社サラダコスモ研究開発本部部长 中田光彦氏

▶ 摂食障害研修会（一般、当事者、家族）

ぬーやいびーがや？摂食障害（みんなで考える摂食障害）

11月9日（金）13:00～14:50@万国津梁館 オーシャンホールB+C

<対象>治療者、一般、当事者、家族

<後援>摂食障害学会市民講座、沖縄県、沖縄県医師会、一般財団法人沖縄県歯科医師会、公益社団法人沖縄県看護協会、公益社団法人沖縄県栄養士会、沖縄県臨床心理士会

<参加者>63名

<登壇者>琉球大学大学院精神病態医学講座 石橋孝勇先生、理事 石川俊男先生



講習会

▶ 摂食障害研修会（専門家限定）

摂食障害の理解とサポート～摂食障害の治療と施設間連携について～

11月18日（日）13:00～16:00@名古屋大学医学部附属病院精神科 鶴友会館

<共催>名古屋大学医学部附属病院精神科

<参加者>62名

<登壇者>名古屋大学大学院医学系研究科 精神医学 尾崎紀夫先生、名古屋大学医学部附属病院精神科助教 田中聡先生、理事 鈴木眞理先生、理事 西園マーハ文先生



▶ 摂食障害研修会（一般、当事者、家族）

摂食障害ってどんな病気ですか？

12月9日（日）13:00～16:00@秋田市文化会館 第七会議室

<参加者>33名

<登壇者>秋田大学大学院医学系研究科精神科学講座 大森佑貴先生、理事 鈴木眞理先生



▶ 摂食障害研修会（専門家・薬剤師）

摂食障害患者の瀉下薬（下剤）乱用について考える

3月24日（日）10:00～13:30@政策研究大学院大学 1A・B

<参加者>33名

<登壇者> 国立国際医療研究センター国府台病院 薬剤部 山本ゆりえ先生 EAファーマ株式会社 企画推進室 武智祐介様 参与 高木 洲一郎先生 理事 鈴木 眞理先生

<後援>公益社団法人日本医師会、公益社団法人日本精神神経学会、公益社団法人日本薬剤師会、一般社団法人日本社会精神医学会、一般社団法人日本精神薬学会、日本摂食障害学会、精神科臨床薬学研究会、EAファーマ株式会社、皇漢堂製薬株式会社、マイランEPD合同会社

スポルテック／ウェルネスフードジャパン2018

スポルテックは、スポーツ設備・機器、フィットネス機器、スポーツ用品、健康器具、介護機器、サプリメント・健康食品、スポーツツーリズムなどが世界中から一堂に出展する、スポーツ・健康産業日本最大の展示会です。

日程：2018年7月25日 ※会期は7月25～27日

会場：東京ビックサイト内 会議棟 定員：50席

対象者：食品メーカー、健康食品メーカー、小売・流通・問屋、

フィットネスクラブ・スポーツ関連施設、学校、企業等

イベント参加人数：約5.2万人/3日間

テーマ：日本の部活動を考えるシンポジウム
～行き過ぎた勝利至上主義に陥る要因とその問題点～

登壇者①：運動部活動と勝利至上主義 神谷拓先生（宮城教育大学准教授）

登壇者②：部活動での女子長距離選手に忍び寄る摂食障害の影
山内武先生（大阪学院大学教授、日本トレーニング指導者協会監事、
ランニング学会副会長）

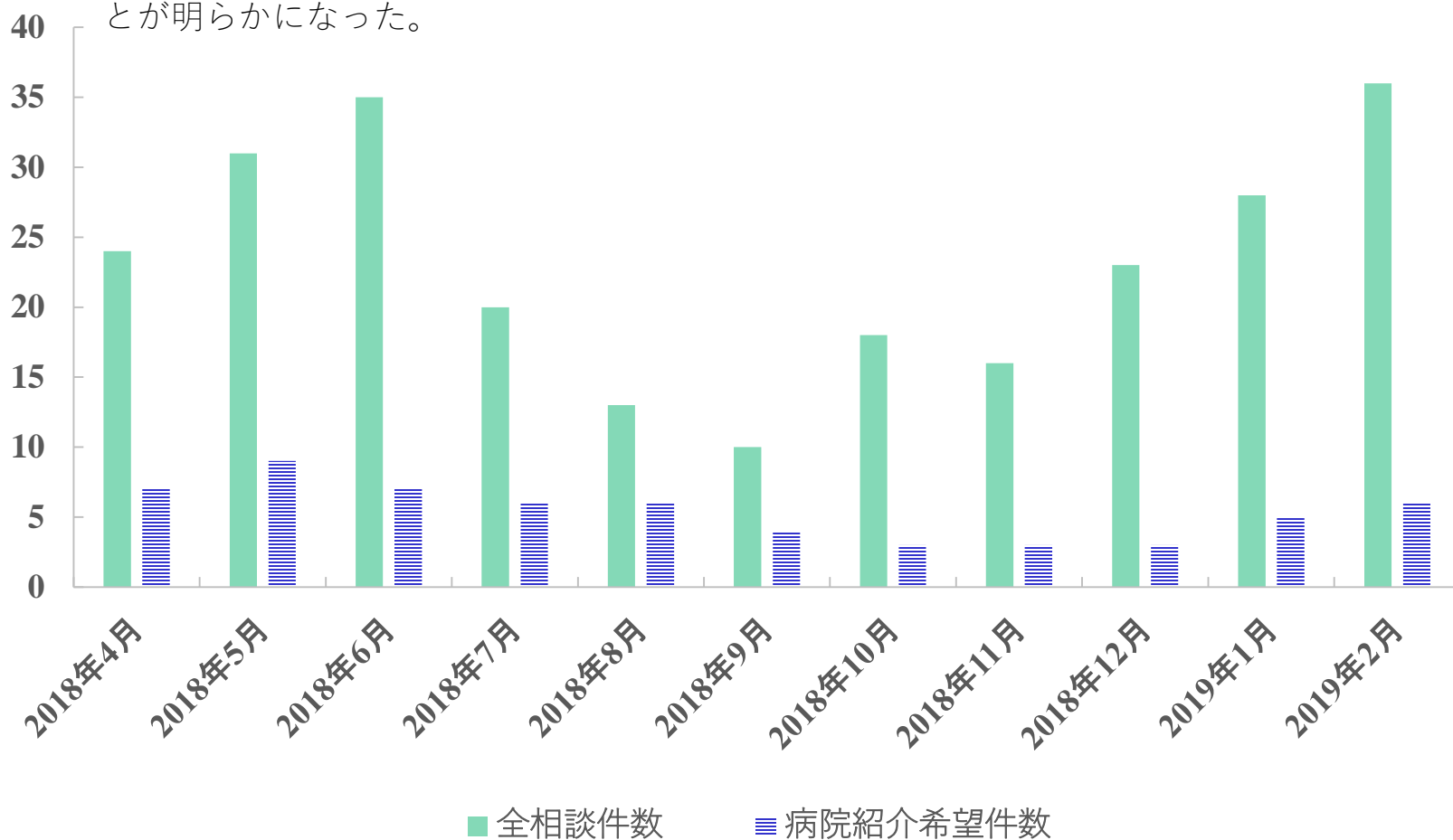
登壇者③：思春期でしかできない健康に良いこと－内分泌内科医からのメッセージ
鈴木眞理先生（日本摂食障害協会理事、政策研究大学院大学教授）

モデレーター：河島德基（株式会社RIGHT STUFF取締役）



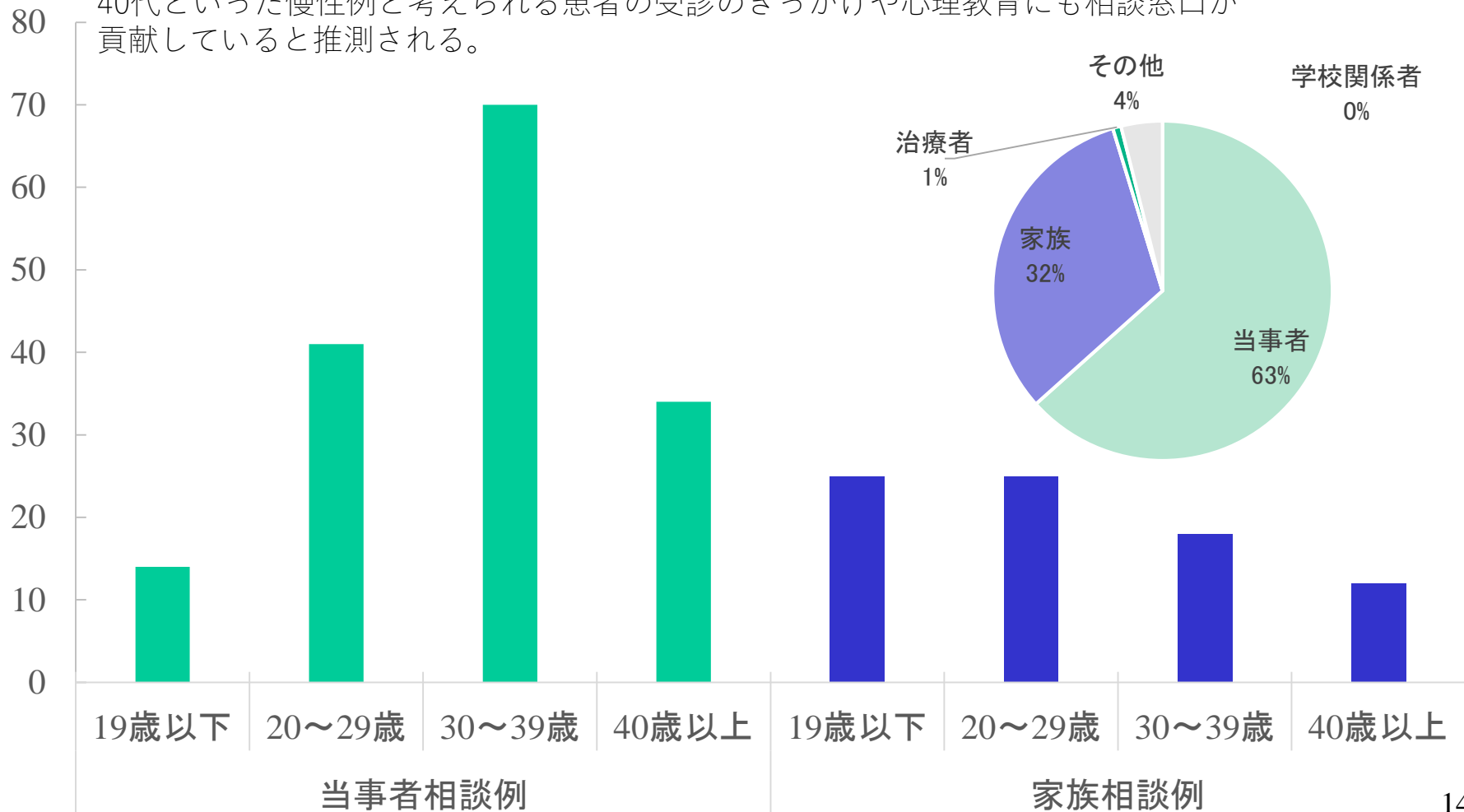
相談窓口状況1_相談件数の推移

2018年度相談件数は計254件（月平均21.2件）。2017年度（計164件、月平均18.2件）と比べ、相談件数が上昇している。病院紹介希望の相談（計59件、全体の23.6%）も依然として多いことが明らかになった。



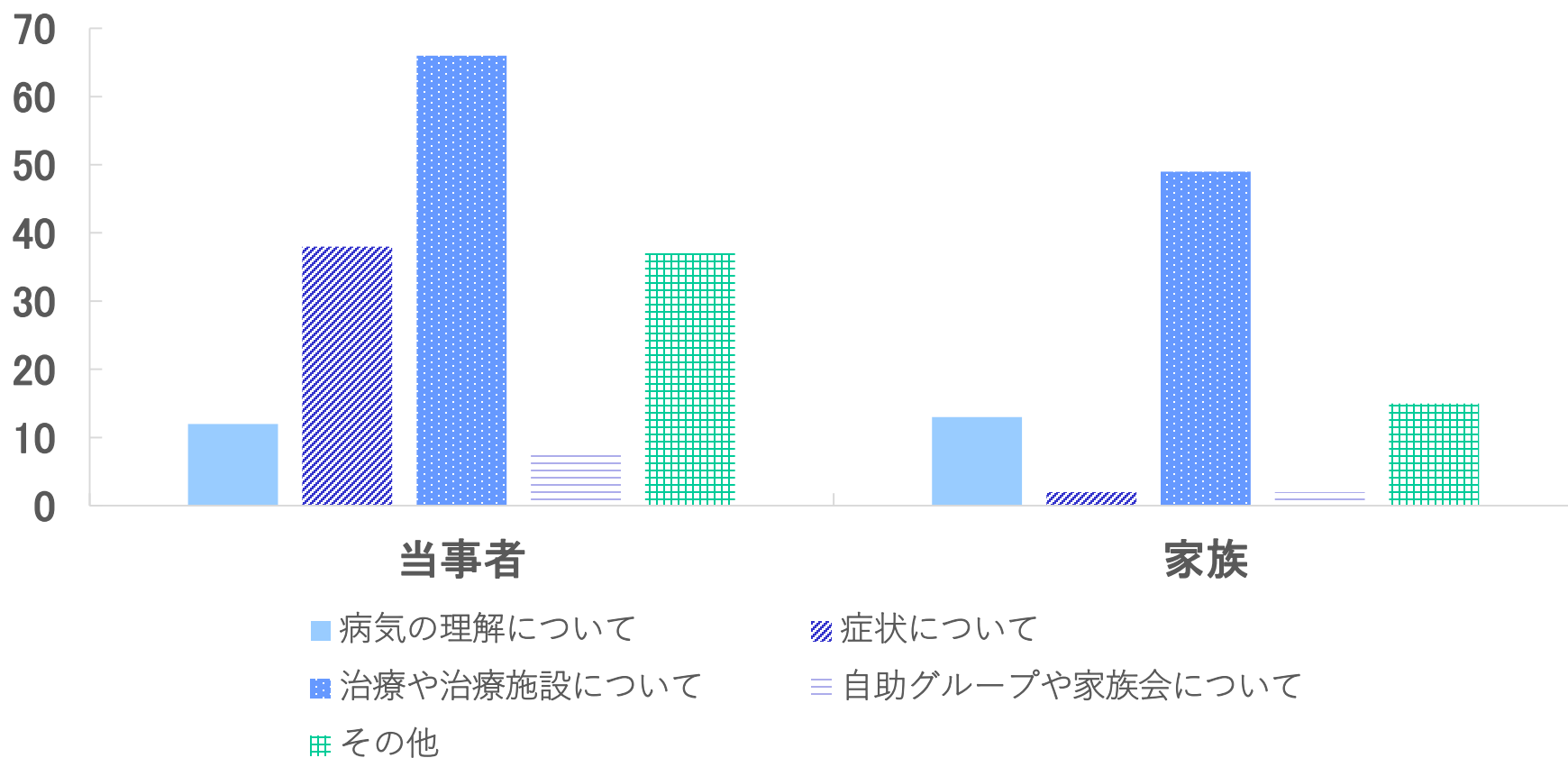
相談窓口状況2_相談者内訳と当事者の年齢

当事者の年齢層は幅広く（平均30.48歳±12.53）、若年者の早期受診だけでなく30代や40代といった慢性例と考えられる患者の受診のきっかけや心理教育にも相談窓口が貢献していると推測される。



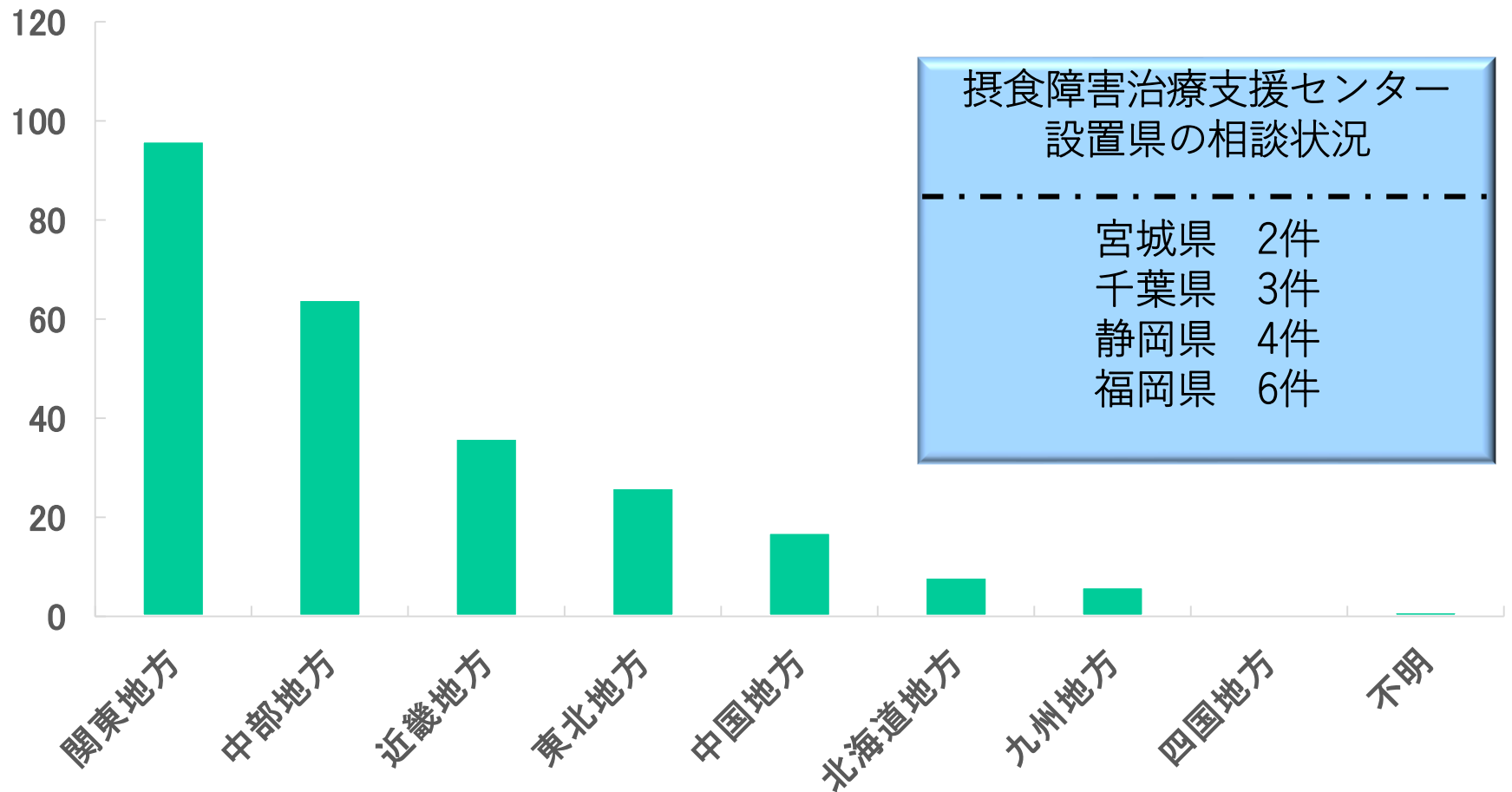
相談窓口状況3_相談内容別相談件数

当事者、家族ともに「治療や治療施設」に関する相談が最も多かった。当事者と家族で差があったのが「症状について」の件数。当事者からは、やせによる健康被害を懸念する相談や、過食嘔吐を止めたいといった相談が多く見受けられた。



相談窓口状況4_地方別相談件数

関東地方からの相談が最も多く、次が中部地方であった。中部地方は、2017年度と比べ相談件数が3倍以上に増加しているが、これは、複数回相談される方が多かったことによるものである。



メディア関連

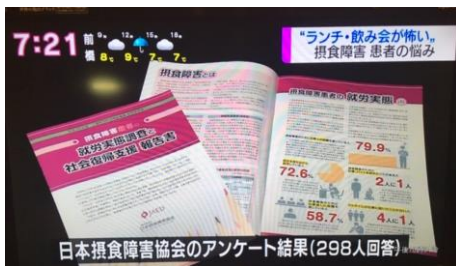
◆Newな2人 (TBS)



◆BLOGOS



◆NHK



◆時事ニュース

◇目立つ体操や陸上、フィギュア

女性アスリートは一般の人に比べ、摂食障害を発症するリスクが2〜3倍高いとされる。シンポジウムで産婦人科医の立場から講演した百枝幹雄・聖路加国際病院副院長によると、10代後半から20代前半にかけて、持久系、審美系、体重階級制のスポーツに参加する選手に摂食障害が目立つという。

「体操、陸上長距離、フィギュアスケートといった特定のスポーツの選手が摂食障害に関係しやすい。摂食障害になりやすい人が特定のスポーツに魅力を感じやすい」と百枝副院長。競技力向上のため過度に体重・体脂肪を落とす「軽量化戦略」についても、摂食障害を招く理由の一つだとの認識を示した。



◆サイゾーウーマン

「高学歴女子は患者数65倍」「ダイエットとは別物」専門医師が語る、摂食障害の原因

いいね! 64 ツイート 47
インタビュー ダイエット 摂食障害

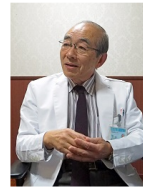
2017.11.09

いつまで太っているつもりですか...10kgを30日で達成
テレビで話題「運動なし」「辛い制限なし」で激減させるダイエット法をご存知ですか?



SPONSORED

元AKB48の光宗薫が摂食障害や心身の不振を告白し、10月から芸能活動を休止中だ。また、アイドルグループBISのプールイがダイエット企画にて減量に失敗。マネジャーから「プタ1」とのられる動画が話題となり、「摂食障害を引き起こす恐れがある」と警鐘を鳴らす専門家の声も見受けられた。こうした現状に対して、一般社団法人日本摂食障害協会副理事長の鈴木裕也医師は、「いわゆる一般のダイエットと摂食障害(拒食症、過食症)は別物」と、さっばり指摘する。鈴木医師に、摂食障害とダイエットの違いや、世間にも広まっている摂食障害への誤解について教えてもらった。



■芸能界は男女のトラブルが起こりがちで、摂食障害が多い

—最近、アイドルの摂食障害や過剰なダイエットに関するニュー

◆ウートビ



—実は私も、学生時代から約20年間、摂食障害(過食嘔吐)なんです。ここ10年くらいは、本当に過度なストレスを感じたときだけ、それを解消する術として症状が出る形でコントロールできているのですが……。

鈴木:コントロールできていれば、それでいいと思いますよ。使う・使わないは別として、頭の片隅にひとつのストレス解消法として「過食嘔吐」があるって感じよね。

—そうですね。だから、病院にも行っていませんし、周りは私が摂食障害だと言わ

- ◆朝日新聞、朝日新聞デジタル、apital
- ◆ロイター通信
- ◆山口朝日放送(テレメンタリー)
- ◆Yahoo!ニュース
- ◆日刊スポーツ
- ◆goo ニュース
- ◆NewsPicks
- ◆Yahoo! ニュース特集 など